

公共施設適正配置計画（案）に対する代替案

1 概要一覧

1 ページ

2 代替案

代替案1 3 ページ

代替案2 5 ページ

代替案3 9 ページ

代替案4 12 ページ

代替案5 13 ページ

代替案6 14 ページ

代替案7 17 ページ

代替案8 24 ページ

代替案9 29 ページ

公共施設適正配置計画（案）に対する代替案（概要一覧）

番号	内 容
代替案 1	<p>【東条中学校移転用地を提案】</p> <p>1 案：東条グラウンド周辺 2 案：南山工業団地の中</p>
代替案 2	<p>【コスミックホール存続に向けた具体案】</p> <p>1 財政負担を軽減するため、新たな助成金や補助金の獲得に努める。 2 運営について、新たなボランティアを募るなど、コストパフォーマンスのさらなる向上に努める。 3 市民の要望に応え、新たな顧客を生み出す。</p> <p>【文化会館の先駆的な「義務教育の拠点」としての活用案】</p> <p>1 やしろ国際学習塾は、兵庫教育大学の留学生や市内の外国からの住民たちとの交流を通じて、小中学生の実践的な「英語教育」の場としての有効利用を考える。 2 滝野文化会館は、ICT による情報機器を備えた最新鋭の研修施設として整備し、市民や市内民間企業はもとより、小中学生の「情報教育」の拠点として活用する。 3 コスミックホールは、音楽の殿堂、文化的な生涯教育の場として、さらに兵庫教育大学や市内高校生とも交流を深めながら、小中学生の豊かな情操を育む「音楽教育」の場として、その存続と活用を図る。 4 3つのホールを活用し、「教えられる教育」から「自ら学ぶ教育」を実践する。</p> <p>【東条地域における学校用地として、JAライスセンター用地を提案】</p>
代替案 3	<p>【小中一貫教育】</p> <p>小中一貫校建設案は、現段階では見送る（慎重に検討を続ける）。東条中学校敷地の再調査を行い、結果が良ければ、中学校の校舎だけを建替え。体育館等の施設は、もう少し使用する。</p>
代替案 4	<p>【小中一貫教育】</p> <p>最初に滝野地域から小中一貫校を建設し、小中一貫教育を推進する。東条・社地域は、保護者等の理解が得られるまで後回しにする。</p>
代替案 5	<p>【小中一貫教育】</p> <p>東条地域の小中一貫校の建設場所は、インターパーク内の小学校用地とする。（東条文化会館の取り壊しには賛成。）</p>
代替案 6	<p>【コスミックホールの活用方法】</p> <p>1 子供たちの合同音楽発表の場 2 フェスティバルの開催 3 コンクールの開催 4 新たな企画運営の提案（企画運営について、市民を交えた議論を重ね、市民ぐるみの活動とする）</p>
代替案 7	<p>【小中一貫教育】</p> <p>東条中学校において全天候フォレストベンチ工法による土砂災害対策を実施し、安</p>

	<p>全を確保したうえで、小中一貫校の問題を住民も交え検討する。</p> <p>【文化会館】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 滝野文化会館は、加東文化振興財団の管轄から切り離し、市民会館として市民に開放する。 2 やしろ国際学習塾は、生涯学習の場として教育委員会各課との連携を図る。 3 東条文化会館は、今後とも地域住民と共に検討を継続する。 <p>検討期間中は、民間団体や企業などが運営コストの一部を担う。検討期間後は、運営負担額と地域貢献度を勘案し、市民を交え廃止の是非について再度協議する。</p>
代替案8	<p>【東条文化会館】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ボランティアスタッフがホール音響・照明を担当する。 <p>【東条公民館】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まちづくり協議会の活動拠点として、継続使用する。 <p>【図書・情報センター】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老朽化しておらず、現状維持とする。 <p>【小中一貫教育】</p> <p>東条地域の学校の統廃合は、地域と連携しながら進める。</p>
代替案9	<p>【とどろき荘】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宿泊は継続とし、宿泊者の入浴時間を延長する。(やしろ鴨川の郷を基本) 2 会議室の利用時間を見直し、時間貸しも可能とする。 3 宿泊部屋すべてにトイレを設置する。 <p>【東条公民館】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 とどろき荘への移転は行わず、文化会館に移転する。

代替案 1

平成27年6月2日

加東市長 安田 正義 様

住 所

代表者氏名

住 所

代表者氏名

加東市公共施設適正配置計画（案）に対する代替案について

初夏の候、貴台益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、見出しの件について別紙により代替案を提出します。

ご審議のうえ、ご検討いただくようお願い申し上げます。



1 対象施設名

東条中学校移転用地（東条地区小中一貫校用地）

2 原案への異議

- (1) コスミックホールの音響設備は他に類を見ない程ずば抜けている。それは全国的にも高い評価を得ているし、今後この様な施設の建設は不可能である。
- (2) 現在も様々な催し物が住民の手によって実施されている。
- (3) 一貫校の建設地としては校庭が県道によって2分される様な計画は疑問である。又、現東条中学校は地盤が不安定で学校の様な公共施設の建設地としては不向きである。

3 提案

小中一貫校としてでは無く中学校の用地として提案します。

1案 東条町民グランド周辺

2案 南山工業団地の中

4 提案にあたって

1案は現在の施設を利用できる。

2案は将来小中一貫校の建設地として面積的にも可能である。

5 当代替案を [REDACTED] として名簿を添え要望します。

※名簿は、割愛しています。

公共施設適正配置計画案についての代替案

2015. 6. 6

1. 3つのホールは加東市の「文化財産」

加東市の有する3つのホールは、地域住民が集う生涯学習の場であり、文化にかける想いのシンボルでもあり、何物にも代え難い貴重な市民の「文化財産」である。

したがって、財政的な負担を理由に東条文化会館（コスミックホール）のみを廃止するのではなく、それぞれに豊かな個性と可能性を持った3つのホールを有機的に連携させ、それらを有効に活用しながら、市長と市民の「協働」による文化豊かな加東市の「地方創生」の原動力にしていくことを提案したい。

2. 3つのホールの特色と今後の活用方向

(1) やしろ国際学習塾は、平成3年、国際都市整備事業により整備された施設で、L.O.C ホール（700席）をメインに多彩なタイプの会議室を有し、L.O.C ホールは、演奏会や音楽発表会、講演会など幅広く利用され、また、交流広場には本格的な茶室を設けており、茶会など日本庭園に囲まれた静寂な空間を楽しむことができる。

加東市の中心に位置し、また兵庫教育大学に隣接する地の利や様々な史跡なども活かした国際交流活動はもとより、今の喫茶室をオープンカフェ風に改装するなど、市民が気軽に会議やイベントに利用しやすいように工夫を加える。

(2) 滝野文化会館は、昭和58年、市民の文化及び教養の向上を図るために整備された施設で、大ホール（404席）をメインに研修室、和室など様々なタイプの会議室を有し、文化的行事の開催や市民の文化活動等に利用することを目的として、兵庫県立播磨中央公園に隣接した豊かな自然環境の中で、市民が親しく集える会館として利用されている。

こうした特色をさらに活かすため、今後は文化振興財団から切り離し、加東市の市民生活課の所轄とし、様々な研修をはじめ文化的行事やサークル等に広く活用される市民会館として開放する。

(3) 東条文化会館（コスミックホール）は、平成2年、日本でも有数の音響を誇るホールとして整備され、その愛称をコスミックホールとして加東市民のみならず、近隣市民や国内外の音楽家たちからも高い評価を受けている。特にホール（574席）は、生音の響きが美しいホールとして幅広いジャンルの演奏会が可能であり、さらには舞台装置を使った演劇、バレエなどの演目にも対応できる。

今後とも、ソロからオーケストラの演奏にいたるまで、微妙な変化にも効果的に対応でき



る音響の良さ、落ち着きのあるホールの特性を活かして、伝統ある日本木管コンクールや著名音楽家による演奏など、市民が身近に質の高い音楽に触れながら、ともに喜びを分かち合える生涯教育の拠点として、その有効活用を図る。

3. コスミックホール存続に向けた具体案

(1) 財政負担を軽減するため、新たな助成金や補助金の獲得に努める。

- ①日本音楽財団や稻盛財団をはじめ、広く民間企業や団体からの助成金や補助金を得られるような活動を展開する。
- ②兵庫県立芸術文化センターなどの例に習って、ホールに支持団体の“冠”をつけたり、パンフレットやチケット類にスポンサーの名前を入れる。
- ③日本木管コンクールの関係者と連携する。
- ④国や県などからの助成や協賛も得られるように努める。

(2) 運営については、新たなボランティアを募るなど、コストパフォーマンスのさらなる向上に努める。

- ①著名な演奏家の招聘や優秀な音楽家の発掘にあたっては、細やかでリーズナブルな企画が可能な音楽事務所との連携を図る。
- ②チケット販売や演奏会の実施には、ボランティアはもとより、広く一般市民にも協力を求めながら、地域ぐるみで気運を盛り上げていく。
- ③日本木管コンクール関係者の協力も得て、全国的なPR活動などを展開する。

(3) 市民の要望に応え、新たな顧客を生み出す。

- ①一般市民と音楽の喜びを分かち合える仕組みをつくる。
 - ・音楽教室の開催など、新たなファン獲得に向けた啓発活動に努める。
 - ・演奏にあたっては、音楽の楽しみ方、味わい方、演奏方法などの解説も加える。
- ②演目の選定には、市民からのリクエストにも積極的に応えていく。
- ③市民による「手づくりの音楽会」、「市民参加の音楽会」など、楽しい企画も積極的に取り入れる。
- ④市民の要望に応えて新たな演目を検討する。
 - ・加東市民合唱大会、カラオケ大会、音楽コンクールなど
 - ・芸能会、落語、浪曲、芝居、太鼓など

4. 先駆的な「義務教育の拠点」としての活用案

- (1) やしろ国際学習塾は、その名にふさわしく兵庫教育大学の留学生や市内の外国からの住民たちとの交流などを通じて、小中学生の実践的な「英語教育」の場としての有効利用を考える。
- (2) 滝野文化会館は、その緑豊かな自然環境を活かして、ICTによる情報機器を備えた最新鋭の研修施設として整備し、広く市民や市内の民間企業はもとより、小中学生の「情報教育」の拠点として活用する。
- (3) コスミックホールは、伝統ある音楽の殿堂として、市民の文化的な生涯教育の場として、さらに兵庫教育大学や市内の高校生とも交流を深めながら、小中学生の豊かな情操を育む「音楽教育」の場として、その存続と活用を図る。

([REDACTED] をはじめ日本木管コンクール関係者の協力も得ている)

- (4) これらの3つのホールをサテライトキャンパス的に位置づけ、「教えられる教育」から「自らが学ぶ教育」を実践する。

①反転授業、アクティブ・ラーニング、市内企業とのインターシップの導入

- ・時代の要請に応えて、教科書を横断した幅広い視点からの授業や探求的な学習を促進する主体的な授業を行う。
- ・そのために、市民の中から専門知識や豊かな社会経験を持つ補助教員を募り、積極的に授業に関わってもらう。

②生徒間の“いじめ”や“不登校”的芽を摘む「開かれた学びの空間」の確保

- ・学校単位の枠を超えて、のびやかに学ぶ経験を積ませる。
- ・ICTの活用によって、ホールでも授業が受けられる制度を検討する。

③市民参加のキャンパスづくり

- ・軽易な作業や補修などには、市民の手を借りて経費の節減をはかる。
- ・大人たちが身近に活動する姿にふれながら、子供たちが豊かな人間関係の在り方を学ぶ。

5. コスミックホールにかける我々の熱き想い

コスミックホールは、旧東条町と町民が熱心な議論を積み重ねたうえで、音楽にあふれた文化豊かな町づくりを進めようと、当時の町の財政規模から考えても、相当に思い切った英断によって建てられた施設である。その音響の良さはもちろんのこと、平山郁夫氏による西陣織の綾帳などともいまって、いわば旧東条町民の文化振興にかけた情熱を象徴する【文化遺産的な施設】となっている。

その運営においても、多くの町民による自発的な参加を得てきたという歴史を有し、なかで

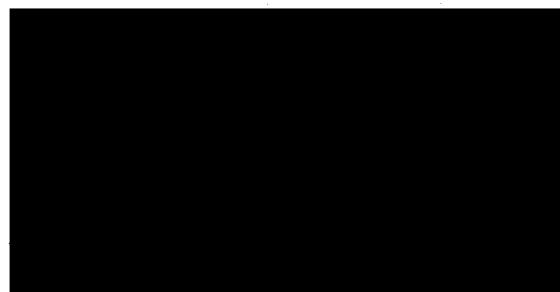
も住民の「おもてなし」にも支えられた日本木管コンクールは、我が国の若手音楽家たちの登竜門としての位置を確立している。関係者からは、コスミックホールの存続を切望するだけでなく、再びホールで演奏したい、住民に恩返しをしたいという数多くの声が寄せられている。

こうした状況の中で、もしコスミックホールが取り壊されることになれば、いち早く反対の署名活動に取り組んだ中学生たちに象徴されるように、地域住民に与える心のダメージは計り知れないものとなり、市長はじめ市政（市役所、市議会、市教育委員会等）に対する致命的な不信感や反発が生じる。のみならず、加東市の将来に深刻な禍根を残すことが予想される。

ついては、コスミックホールの取り壊しを前提にした議論ではなく、施設のさらなる有効活用や財政負担軽減の工夫も加えながら、市当局や市議会はもとより、広く市民ぐるみの検討の場を設け、活発な議論の展開を促されてはどうか。こうしたプロセスを積み重ねていくことにより、東条地域の住民のみならず、社や滝野地域の住民とも一体となった新たな加東市づくりの気運が高まり、市政を支える協働的な「市民運動」の醸成が期待できる。

さらに、全市民の学びと協働をめざす生涯教育の視点も加味し、「公共施設適正配置計画」の一層のブラッシュアップを図り、もって文化豊かで魅力にあふれる加東市のさらなる発展に向けて、力強い歩みが始まることを切望してやまない。

※なお、コスミックホールの近辺には、学校用地にふさわしい土地もあることから、さらに検討を加えられたい。



加東市企画協働課様

加東市教育長様

加東市教育委員様

代替案 3



新聞記事で6月12日まで代案を受け付けてくださると知り、考えさせていただきました。

です。

代案です。加東市内の [] の拙い意見ですが、パブリックコメントと同様に検討と公表をお願いします。

- 1 「小中一貫校建設案は現段階では見送る。各校の問題については、各小学校区で話し合い・意見交換会等を開催しながらじっくり慎重に検討を続けていく。市の案の作成・説明会にはほとんど関わってこられなかった教育委員さんにも参加してもらう。」
- 2 東条中学校の裏山を歩いてきました。綺麗になだらかに整備されています。地すべり対策は数回にわたって実施済みですよね。綿密な再調査をする価値はあると思います。再調査の結果が良ければ、急ぐ中学校の校舎だけを建て替え、体育館、技術室、プール、グランド、武道場はもう少し使用可能かと思います。そうすれば市の支出も大幅に削減できると思います。崩れそうな場所があれば、多少の工事をして、土地を購入し、校舎・グランド・体育館・プール等全ての設備を新調するよりもコストダウンになるかもしれません。検討してはどうでしょうか。

理由

①小中一貫校の教育的効果や短所は学会でもがきちんと検証されていません。研究者の中には反対意見も多く、各小学校区住民の合意もまだできていない。

②極小規模、複式学級のある学校については、じっくり地域住民と話し合ってから方向性を決める。まだ住民の合意は形成されていない。

③市の小中一貫校建設案は、メリットばかりを強調しそぎであり、デメリットの調査がなされていない。

兵教大の [] に、5月26日の加東市教育委員会主催の講演会で質問しましたが、一貫校の現状(学力の上下変動、不登校の増減、問題行動の増減、児童生徒の満足度やイライラ感)については、彼は調査研究をされていませんでした。データ、論文等もご存知ありませんでした。

『成果があがっているはずと思う。』とのことでした。成果が上がっているはずと思うなら、データを示したり、その実践を語ってもらいたいです。

小中一貫校の実態を調査も研究もしていない、データも論文も知らない学識経験者の意見は信用できませんよ。被害にあうのは未来ある子どもたち、未来の保護者です。

④デメリットも含めた現状を詳しく調査研究されているのが、5月26日の神戸新聞の記事にある和光大学現代人間学部の山本由美教授です。市長さん、教育長さん、教育委員さん教育委員会総務部長さん、和光大学山本由美教授の記事・資料を検討して、デメリットについても充分な検証をしてください。お願ひ致します。

⑤案どおりの小中一貫校にすると、小学生の児童の通学距離が長くなる地域があります。

例えばですが、野村、貝原の地区(距離4キロくらい)の保護者の方は下校時は多くの保護者が車で迎えに来られています。

統廃合した淡路島では通学バスの費用が膨大になり市の財政を圧迫しているとも聞きます。是非とも調査研究をお願い致します。例えば、バス通学になる地域はどこですか？それを示さないと地域住民は判断のための資料を知らせてもらっていない状態です。バス通学を実施した場合の、市の負担額は試算されていますか？バスは何台必要ですか？発車時刻に遅れた児童生徒はどうやって登校すればいいのですか？そういうことをきちんと試算してから住民に示すことが必要です。良いことばかり言えば住民は賛成します。でも、ふたを開けると、こんなはずではなかったという話になります。すると、不信感だけが残り、返ってマイナスとなります。その後に、現在の小中学校の保護者だけへのアンケートではなく、全世代の地域住民に意向調査をしてから学校の統廃合を決めるべきと思います。

⑥「一貫校にすると教師の授業の乗り換え(行き来)がスムーズでロスが少ない。」とお考えのようですが、教師の移動は車です。児童は基本的に徒歩です。高いお金を出して一貫校を建設するのではなくて、校舎は今のを使い、曜日を決めて教員が移動するのも一案です。市の都合や、教師の都合で児童保護者にしわ寄せする小中一貫化はよくないと思います。

⑦学校の統廃合については、教育委員会に決定権があると思うのです。この提案をなされる前に、教育委員会で十分に論議されましたか。その経過と内容を議事録で示してください。(知識不足で間違つていれば訂正願います。) その5人の教育委員さんの会議録が無い状態で出された案ですよね。権限・責任の無い人たちが作成した案であれば撤回してください。

⑧「パブリックコメントに対する市の考え方」の中に「教職員、保護者、地域住民、学識者そして教育委員を中心とした小中一貫教育研究会を立ち上げ、」とありますが、教職員には何も知れされない間に、校長が推薦し、委員会が決定し、議会に報告し承認されています。今回も新聞報道で「小中一貫教育研究会」について始めて知り、「校長・義務教育課長に希望したいと伝えましたが、もう決まった後だ。」と言われました。これでは市民は、「市の案に都合の良いメンバーを集めた、できレース」と思うのではないでしょうか？学識者にしてもメリットを述べる人と、デメリットの調査研究をされている学識者（和光大学現代人間学部の山本由美教授等）もメンバーにしてください。そうしないと、加東市や教育委員会への住民の信頼感は薄れていくと思います。

⑨パブリックコメントはA4用紙にして百数十枚、170人以上の意見がありました。他の例を見ても、普通パブリックコメントはそんなにたくさん返ってこないでしょう。それだけ提案に納得できず、言わずにはおられない人が多かったのです。（市のHP参照）これは一部の人の意見とせずに、やむにやまれぬ意見・不満を持った市民の声の氷山の一角ととらえてください。「パブリックコメントに対する市の考え方」は元の案を繰り返し記述している部分が多かったと思います。

⑩パブリックコメントすでに述べたことは省略します。（市のホームページに掲載済みです。）

⑪小規模校のメリットを活かして小規模校を存続させることは可能です！
文部科学省の通達の第4章を参考にしてください。

以下は、平成27年1月27日の文部科学省の通達「公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引き～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」の抜粋です。

熟読されていると思いますが、参考にしてください。

4章 小規模校を存続させる場合の教育の充実

【少人数を生かした指導の充実】

○ 一般に小規模校には下記のようなメリットが存在すると言われています。

① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい

② 意見や感想を発表できる機会が多くなる

③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる

④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる

⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える

⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である

⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる

⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい

⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

○ こうしたメリットを最大限に生かし、例えば下記のような取組を行うことも考えられます。

① ICT（例：電子黒板、実物投影機、児童生徒用PC、デジタル教材等）を効果的に活用し、一定レベルの基礎学力を全ての児童生徒に保障する

② 個別指導や補習の継続的な実施、学習内容の定着のための十分な時間の確保、修業年限全体を通じた繰り返し指導の徹底などを総合的に実施する

③ 少人数であることを生かすことでより効果を高めることが期待できる教育活動（例：外国語の発音や発表の指導、プレゼンテーション指導、音楽・美術・図画工作・体育等の実技指導）において、きめ細かな指導や繰り返し指導を徹底する

④ 技能の向上の観点から、ICTを活用して運動のフォームや実習の作業等を動画撮影し、効果的な振り返りに活用する

⑤ 総合的な学習の時間において個に応じた学習課題を設定し、複数年にわたり徹底的に追究させる

⑥ 少人数であることを生かして、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において、踏み込んだ意見交換をさせる

⑦ 児童・生徒会活動や各種の班活動等を通じて、意図的に全ての児童生徒に全ての役職を経験させる

⑧ 隣接学年のみならず、学校全体での異年齢活動や協働学習を年間を通じて計画的に実施する

⑨ 教育活動全体を通じて、校外学習も含めた様々な体験の機会を積極的に取り入れる

* 追伸ですが、説明会や市民に約束されている次期説明会の早期開催をお願い申し上げます。長ったらしい下手な文章を、最後まで読んでいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

5月26日の神戸新聞の記事にある「和光大学現代人間学部の山本由美教授の講演会の要旨」も、以下に添えさせていただきます。

代替案 4

加東市企画協働課様



代替え案を提出しますので、ご検討くださいますようお願いします。

最初に滝野地域に小中一貫校を建設し、小中一貫教育を進めていく。

そして、東条と社は保護者や住民の理解が得られるまで後回しにする。

理由

- ① 滝野南小学校は広大な敷地に建ち、近隣に空き地もある。ここなら一体型の小中一貫校が建設可能ではないか。
- ② 滝野地区には JR 加古川線があり、通学が便利である。病院に行くなどで遅れて登校するとき、用があつて早退するときにも、東条や社地区よりは利便性が良い。
- ③ 他地区の場合、児童の登下校用のバスが必要になるが、滝野地区においてはその必要性が低い。
- ④ 滝野地区には現教育長と現教育委員長がおられ、地元の協力や合意が得やすい。
- ⑤ 滝野地区に一体型の小中一貫校を建設し、小中一貫教育を進める。それをモデルケースとし、その成果と課題を明らかにしていく。そして、課題を克服しつつ、東条と社地区の小中一貫校建設について、保護者や住民の理解が進むよう努めていく。

小中一貫校については、評価が定まっているとは言い切れません。保護者アンケートを見ても、「小中一貫教育の実施は有効であるか」とか「小中一貫校の開学に関する計画の進め方」についての間に、「わからない」と回答された保護者の方が多いのは、県内に小中一貫校が少なく、良い評価も伝わっていないからだと考えます。

「教育は百年の大計」です。義務教育は、一人一人の子どもの一生をある面では決めてしまします。それで、このような制度の変更は、保護者や住民の理解を得るようにして、慎重な上にも慎重を期してやってほしいです。



公共施設適正配置計画案の代替案

東条地域の小中一貫校の建設場所の代替案として、

約20年ほど前（平成5年～7年）に、南山インターパークが造成

開発された時に、学校用地が確保されていると聞いておりました。

その用地を利用する事は、できないのでしょうか？

尚、申し添えますが、

私は、東条文化会館の継続、取り壊しについては、今後の維持経費

の面等で取り壊しにむしろ賛成ですが、あえて上記の理由で提案い

たします。

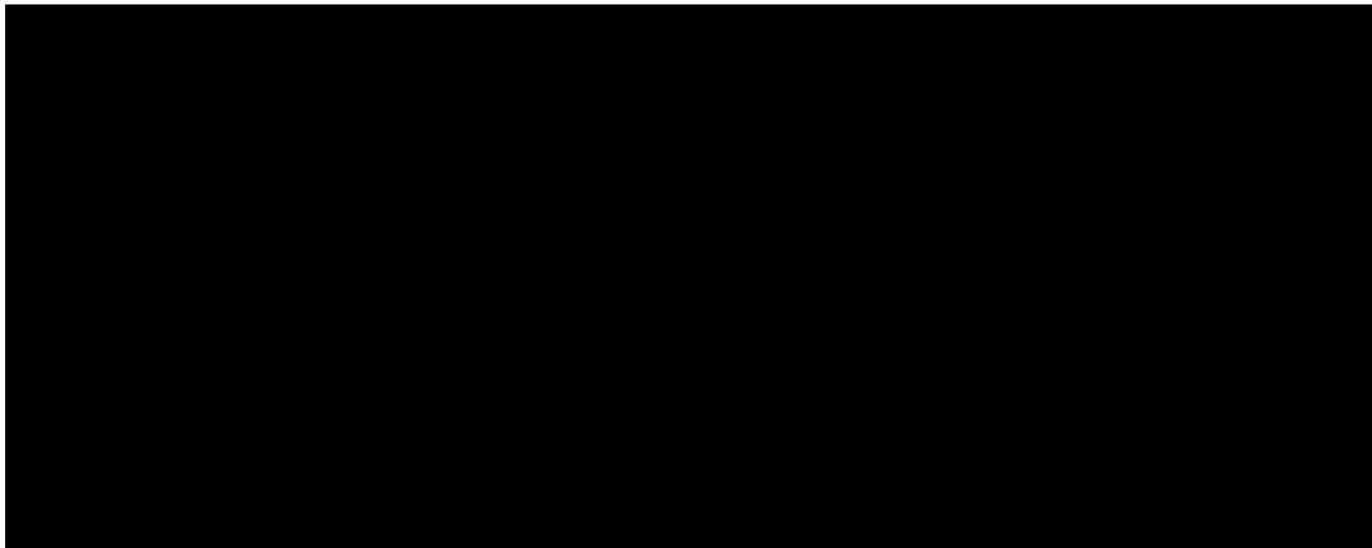
平成27年6月11日



公共施設適正配置計画案

(東条文化会館コスミックホール) の取り壊しについての代替案

平成 27 年 6 月 12 日



コスミックホールに対する想い

この私たちの活動の拠点としているコスミックホールが取り壊される事になれば、私たちの二十数年に渡りコスミックホールで演奏する事にこだわってきたコンサートも出来なくなり、私たちの保育園での指導が基盤となり、小学校でもコスミックホールの舞台で演奏する事を楽しみにしている子供たちの目標を奪ってしまうことになります。しかも、加東市の音楽文化のレベルが低下することに繋がるのではないかと危惧しています。

適用方法

私たちはコスミックを子供たち（若い世代）の夢を育てるホール、音楽教育の拠点としてもっともっと活用するために、是非ともコスミックホールの存続を願って、ホール取り壊しの代替案として以下の通り提案します。

提案 1：子供たちの合同音楽発表の場

① 加東市内保育園、幼稚園の合同発表会

- ・合奏や歌を披露する。
- ・他園を観る事で保育士の方の意識改革にも繋がり、研修会のように会を活用できる。
- ・観客には家族はもちろん、市内のお年寄りを招待し、三世代交流をはかる。
- ・小さい頃から、本物に触れる。



②加東市内小学校の合同音楽祭（例：4年生だけ）

- ・晴れの舞台（特別な場所）での演奏を目指す事が励みになる。
- ・現在一部の小学校のみで実施されているコスミックホールで演奏する事の感動や達成感を多くの子供たちに体験させる機会になる。

③加東市内中学生の合唱祭（例：校内選抜上位3位以上）

- ・素晴らしい音響の中で歌い、一つの音楽を奏でる喜びを体験する。
- ・多感な年ごろの子供たちに、人は音を鳴らす者と音を聞く者に関わりなく、素晴らしい音の世界に身を置ける幸せを体感させる機会になる。

この様な具体案を実現することによって、加東市内の子供たちの音楽に対する意識も変わり、加東市の子供たちの音楽レベルも格段に向上するでしょう。

提案2：フェスティバルの開催

地方で発表の場に恵まれない中高生たちのために、音楽祭をコスミックホールの素晴らしい環境で開催し、子供たちを勇気づけ、励まし、育てる教育施設にする。

今、全国的に中学校の吹奏楽部、コーラス部の小規模化が進んでいる状況で、音楽系のクラブ活動は存立の危機を迎えており、その多くが少ないと聞きます。

地方都市にあっては、中学高校の吹奏楽部、コーラス部等の音楽サークル経験者が、音楽好きが長じて地方都市の音楽文化を支えている様な状況が見られ、後を継いでくれる子供たち（若者）を育てなければ、地方の音楽文化そのものも崩壊してしまいます。

地方の中高生が、この音楽祭『コスミック吹奏楽フェスティバル』、『コスミック合唱フェスティバル』に出場することを楽しみにする。それを加東市民が聴きに行き、声援を送る。それを繰り返す事で加東市と子供たちの夏休みの一大イベントに育ててはどうでしょうか。

そうすると加東市の名前が大きくクローズアップされ、知名度も高まります。

提案3：コンクールの開催

音楽があふれる加東市で更に吹奏楽の場合によっては合唱の《聖地》となるようなコンクールをコスミックホールで企画する。

吹奏楽コンクール開催するならば、是非、企画実行委員長は、吹奏楽界のKINGと称される【保科 洋氏】に引き受けて頂き、方法を考えて頂きましょう。国際コンクールの課題曲も作曲される方が幸いにも加東市民でいらっしゃいます。コンクールに合わせ、各学校の指導などもお願いし、このコンクールの魅力にする。

新たな企画運営の提案

以上の提案は [REDACTED]からのアイディアですが、ホールの企画運営には、是非とも市民を交えた議論を重ね、幅広くボランティアを募るなど、市民ぐるみの活動にして行きましょう。

今日の演奏会に来た人が感動し、次に友達を連れて演奏会に来る。すると、また別の感動や発見が用意されている。そんな、点が線になり、線が面になるような観客の増え方を目指し、一年を通してのコンセプトなどを打ち出す。加東市の音楽文化を街ぐるみで盛り上げて行く・・・・

[REDACTED]は、これまで通りの活動に加えて、これからも色々な形で協力し、観客とホールの縁を結んで行きたいと思います。

加東市に望むこと

今年に入り、コスミックホール取り壊し案に対して、全国の音楽家が存続を訴え、地元や全国の音楽家たちの協力によりイベントが多く開催され、利用者数の増加につながっています。これも、コスミックホールの魅力によるものなので、是非とも存続する方向で、加東市には財政的な努力をお願いします。また、新たな資金の獲得の工夫によって、設計時に設定している耐用年数までは使用できるようにして頂きたいと思います。

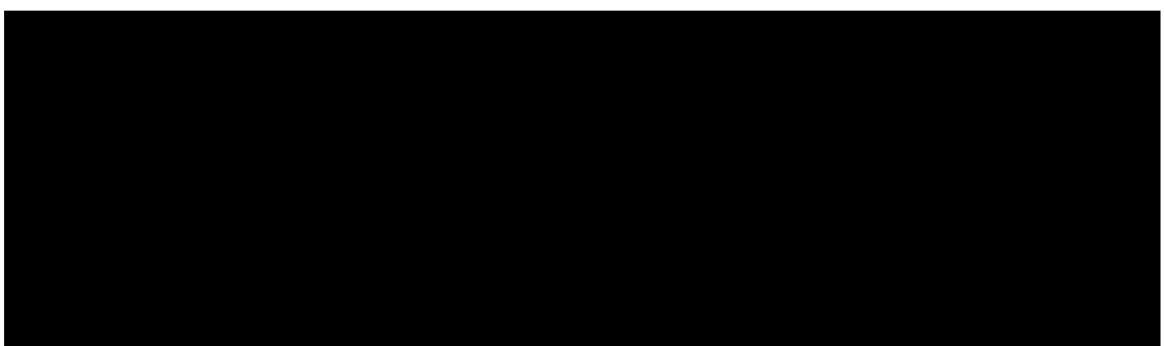
提案1：2：3に対しては協賛企業などの協力を得て、経費削減をお願いしたい。

私たちの願い

コスミックホールの良さは一流の演奏家たちに絶賛されるほどですが、私たちも近隣の市町が持つ文化会館、或は音楽ホールと言われる会場での演奏経験が多々あり、身を持ってコスミックホールの素晴らしさを体感しています。だからこそ、今ある素晴らしい文化施設をいかに長く活用するか、パリ・オペラ座も出来た時は1年目、今では素晴らしい世界遺産として受け継がれています。

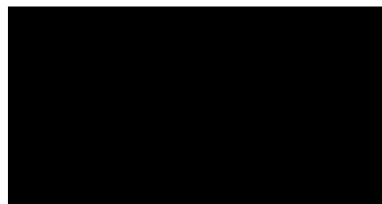
コスミックホールは加東市の文化財産です。「木を見て森を見ず」の様に、財政的な理由だけでコスミックホールを壊してしまったならば、これからのか加東市はどうなってしまうでしょう。コスミックホールを次の世代にも引き継ぎ、文化豊かで魅力ある加東市となるよう、今一度発想の転換をして頂きたいと強く望みます。

どうぞ宜しくお願ひします。



代替案 7

加東市公共施設適正配置計画（案）代替案



以下の通り、加東市公共施設適正配置計画（案）について、代替案を提出致します。

1) 東条中学校については、現時点で東条中学校が土砂災害危険区域にあることから、全天候フォレストベンチ工法による土砂災害対策を行って、まずは現東条中学校敷地内の安全性を高める対策を行います。全天候フォレストベンチ工法では約2.7億円で土砂災害対策が可能との見積もあり、更に工程の一部を地元ボランティアでまかなうことで、費用を抑える道が開けます。このように、まず昨年の広島の集中豪雨規模の災害が起きても安全な対策を講じた上で、移転が必要か、移転するならば移転先をどこにするか、小中一貫校の問題等、住民も交えてより深い検討を行うことを提案します。

2) 滝野文化会館については、ホールではなく社会教育施設として改修されるということであるので、加東文化振興財団の管轄から切り離し、市民会館として市民に開放します。また、立地条件を生かし、企業の会議やイベントに利用してもらえるよう、積極的な宣伝活動を行います。

3) やしろ国際学習塾は、兵庫教育大学や地域の学校と連携の上、その名の示す通り生涯学習の場として、積極的に教育委員会各課との連携をはかります。外から演奏家を招聘するような演奏会などの大規模文化イベントの企画実行はこれまで通り加東文化振興財団への委託とし、それ以外はなるべく加東文化振興財団と教育委員会各課や市民生活部、福祉部などとの合同運営として、より広範囲な予算規模で地域の活性化を促すことを提案します。

4) 東条文化会館については、住民の存続希望の声をふまえ、また東条地区に教育文化施設及び生涯学習（老人大学など）が行える施設が他にないことから、性急に廃止を決定するのではなく、今後も地域住民と共に検討を続行することを提案します。

4-1) 検討期間中に、東条文化会館の運営について、加東市および加東文化振興財団が全責任を負うのではなく、第三の民間団体や企業などが運営コストの一部を担えるよう、対策を行います（対策については詳細本文をご覧下さい）

4-2) 検討期間終了後に、市および加東文化振興財団の運営負担額と、地域社会への貢献度を総合的に勘案し、市民も交えた特別な機関で、東条文化会館廃止の是非についての議論を再度行います。

【全天候フォレストベンチ工法について】

東条中学校は現在土砂災害区域内にあり、危険な状態ですが、東条中学校を移転するとしても、実際の移転は数年後になります。その前に災害が起きてしまっては、取り返しのつかないことになりかねません。また、現東条中学校の敷地は市の財産であり、たとえ中学校が移転されても、安全対策を行わない限り、今後も土地の有効利用が出来ないことに変わりはありません。

これらを勘案すれば、東条中学校の土砂災害対策は、中学校の移転や小中一貫校の設立問題とは切り離し、今すぐに対策を開始すべきであると提案します。



全天候フォレストベンチ工法は、全天候（大雨・大雪・竜巻・津波）に対応する、斜面を階段上に作り替え、自然の森を再生することによって災害を未然に防ぐ工法です。既に 東京都の高尾山の圈央道周辺など、国や地方自治体でも多く採用されております。また、大雨のみならず東北地域で東日本大震災の激震や津波にも十分に耐えたという報告もあり、ここ数年でその安全性が各地で証明されております。

考案者の栗原光二工学博士は、棚田の安全性の研究からヒントを得てこの工法を開発されたとのことで、古来から棚田が広がる東条地区には最適の工法であると言えます。

<http://www.forestbench.com/lab/>

この工法には、1) 自然の景観や地下水の流れなどを壊さない 2) ワイヤーの劣化年限までに自然の森を再生することにより、将来のメンテナンスの必要がない 3) コンクリートによる従来の施工方法のように、コンクリート崩れなどの危険がない 4) 工事費用は、目安として1平方メートルあたり4万円 5) 土砂埋め戻しの工程を地元ボランティアなどの手で行うことにより、更なるコストダウンが可能 といった優れた特性があります。

東条中学校区域の施行について、フォレストベンチ研究会に問い合わせ、地図から大雑把な工事費用を計算していただいたところ、以下のようなお返事を頂きました。（追加で更に詳しい情報をいただきましたので、この提案に添付いたします。）

「中学校の北側斜面が、問題の崩壊危険斜面なのだろう、と想定しました。 学校の山沿いの延長を250mとして高さ20mの防護壁を設けると5000m² です。これにm²あたり4万円を掛け、経費率35%を掛けると2.7億円となります。m²あたり単価を4万円と見たのは、地質条件や施工条件が不確定な為です。航空写真から判断したものですが、制度は粗いですが、これくらいの費用でできるのでは無いかと思われます。」

全天候フォレストベンチ工法が適用可能であれば、まず現在の東条中学校の学生、教職員の安全を確保した上で、もっと腰を据えた議論が可能になります。現在の東条中学校を一刻も早く動かしたいがために、小中一貫校の議論が疎かになってしまっては、のちに大きな禍根を残すことにもなりかねません。

したがって、もし万が一全天候フォレストベンチ工法が使えない場合でも、積極的にもっと他に優れた経済的な工法がないか、リサーチを行うべきであると考えます。

【文化会館運営のための財源について】

加東市公共施設適正配置計画（案）に対するパブリックコメントでは、187件にのぼる意見が提出され、そのうち141件に東条文化会館の存続を望む声が書かれておりました。

これに対し、取り壊しに賛成であったのは2件のみでした。しかも、そのうち1件はただし段階をふんで議論すべきである、というのが主旨であり、もう1件は文化会館は1館で良い、とコメントされたのみで、どのホールを残すかについては言及がありませんでした。

更に、もっと時間をかけて議論すべきである、という意見が8件ありました。

このように、今回の廃止議論に対し、疑問や性急さを感じる人々が多くある中で、これを完全に無視して計画を先に勧めれば、地域住民から大きな反感と不信を買うことになります。この住民感情を放置するのは、市の未来にとって、決して望ましいことではありません。

さて、それに対する市側の回答は、「3館ある文化会館をこれからも維持し続けることはとても難しい状況と捉えています」「同じ座席数であっても1館であるのと3館であるのとではスタッフの配置数やランニングコストが大きく違ってきます」との言葉に見られるように、改修費や借地の問題に加え、今後も施設を運用しつづけていくことに大きな問題がある、と考えていることが読み取れます。

そこで、私たちは、現在の市の立場と市民の希望の溝を埋めるため、より柔軟な予算計画を立てることを提案します。

まず、滝野文化会館については、ホールとしての改修は行わない方針が示され、パブリックコメントにもそれに対する反対意見がなかったことから、市案がそのまま通るものと推察致します。

したがって、加東文化振興財団の管轄ではなく、より市民生活に関わりの深い部署が管轄するのが妥当ではないかと思います。

ただその場合、滝野には滝野公民館と滝野文化会館の2つの公民館が存在することになります。これらの施設の差別化をはかり、使用料収入を上げるために、滝野文化会館にはプレゼンテーションを行いやすい環境を整え、企業に会議場として利用してもらえるよう、積極的に立地条件を生かした利用宣伝を行うことを提案します。

やしろ国際学習塾については、たとえば、現在やしろ国際学習塾で行われている市民音楽祭や、加東音楽の日のようなイベントは、文化事業というよりは、かなり教育事業に近い性格を持っております。

これらの行事は、現時点では、1日だけのお祭りイベントです。しかし、これを教育委員会との合同イベントとし、普段の学校教育や生涯教育事業とも連携して行うことができれば、このようなイベントの機会を有機的に教育の機会と結びつけることができ、イベントそのものの開催効果の大幅な向上が見込めます。

また、兵庫教育大学や地元の識者と連携して、熱意ある学校の先生向けに講習会を行いつつ、イベントの当日には生徒とともにその成果を披露する、といったことも出来るのではないかでしょうか。今年、加東文化振興財団の企画として [REDACTED] が市内の高校の先生方に指揮法の講習をすることが決まっておりますが、このような企画は、本来加東文化振興財団のみならず、教育委員会とも連携して行うべきであると私たちは考えております。学校の先生方が、本業を気にしながら就業時間外に行うものではなく、むしろ学校教育を良くするための一環として、教育委員会から希望者に積極的に参加を促すような性質のものであるべきだと考えるからです。

都心部では、たとえば妊娠中のお母さんや乳幼児を抱えたご家族向けに「赤ちゃんコンサート」などが開かれたりしますが、こういった趣旨のイベントであれば、福祉部の子育て支援課と合同で行い、コンサートの前後に情報の提供などを行うこともできます。

同様の協力は福祉部のいずれの課でも可能でしょうし、イベントの種類によっては防災課や市民生活部の各課との協力も可能でしょう。

私たちが加東市の他の課の方々にも、きちんと予算をつけて積極的に文化事業に参加して頂きたい、と考える理由は他にもあります。

例えば、教育委員会を例に取り上げれば、今回市の案では、小中一貫教育という、大規模な改革案が提案されております。この案もやはり、賛成もある一方で、反対の声も多く寄せられております。

私たちは、その原因のひとつは、市民が「市は制度の改革だけ推し進め、その後の運営で顕在化する問題に関しては、現場の先生方や親達に全て負担を押し付ける気なのではないか」という不安があるためではないかと考えております。

市民として率直に申し上げれば、加東文化振興財団の皆様とはイベントの折々にお顔を拝見し、お話しもするのですが、市の職員の方々のお顔は私たちには見えず、どのような考え方をお持ちなのかも分からぬのです。それゆえ、私たちの知らないところで、私たちの知らない人々が、私たちの未来を左右する決定を行っている、という印象が非常に強いのです。

市の教育委員会に関わる方が、きちんと予算をつけた上で、文化事業などの市民と直接交流が行われる機会に直接参加して頂ければ、少なくとも市民の側に教育委員会の顔が見えるようになります。更に、教育委員会は市民の生活を良くするために、ちゃんと予算付きで活動してくれている、今後も何か問題が起きたときには、口約束だけでなく、予算や人員を動かして迅速に対応してもらえるかもしれない、と期待する市民の層も出てくるかもしれません。しかし、教育委員会が単独でそのような企画を行っても、効果が薄い上に、市民に浸透するまでに相当時間がかかります。ここはより合理的に、協力できる分野とは協力し、限られた財源で最大の効果を上げる努力をすべきだと思います。

以上、教育委員会を例に上げましたが、これらはあくまで一例に過ぎません。防災対策、地域経済振興、福祉関係の説明会など、その分野に近くかつ市民の興味の高いイベントなどと組み合わせて合同で行えば、教育委員会各課のみならず他の課とも連携することができます。市民も、ただ市の説明会というだけでは腰が重くとも、イベントがあるならついでに話を聞きに行ってみよう、と思う方々もいるでしょう。財源的にも、より用途が広い財源を使えるようになり、これまで加東文化振興財団だけでは開催が難しかったイベントも企画出来るようになるでしょう。

現在の市の枠組みと職員数で、そのような組織の枠組みを超えた取り組みや、予算執行を行うのは大変難しいかも知れません。しかし、今回の市の案は、市民全体に、それ以上の生活の変化を要求するものです。市の活動や枠組みがこれまでと変わらぬまま、市民にのみ大きな変化を要求しても、市民の心は動かないのではないか、というのが、私たちの危惧です。

市職員の方々に積極的に市民の前に出ていただき、市民と交流する機会が増えれば、議論はより建設的な方向に進んでいくと、私たちは期待しています。

勿論、そのように市の側から動いていただければ、私達も微力ながら、可能な限りイベント等への参加や、アイデアの提出などで協力させていただきます。

【東条文化会館の今後について】

東条文化会館の今後については、今後も議論の継続が必要であり、本年9月という期限内にそれを完了することは不可能だと考えています。

もし、今性急に東条文化会館を廃止すれば、地域住民の大きな反感を買うことになります。計画を遂行しても、地域住民の協力が得られないために予定した効果が得られず、今後の東条地区の発展の目処が立たなくなるのではないかでしょうか。

パブリックコメントとその回答では、まだお互いの意見を述べ合っただけにすぎません。もっと時間をとつて、お互いを理解し、より良い解決法を模索するための議論を深める必要があると思います。

ただ、そうはいっても、案もなく議論するだけでは時間を費やす意味がありませんので、議論の最初の糸口として、私たちからは以下の3点を提案したいと思います。

- 1) 文化活動と、地産品を組み合わせた「地域ブランド」の確立、宣伝
- 2) 「コスミックホールへ行ってみよう」イベントや、企業スポンサーをつけた冠公演など、民間主体のイベントをより発展させ、協力企業や団体を募り、ホール運営費用の充填をはかる
- 3) 文化会館の予約手続きのオンライン化や、キャンセル可能期間を設けることにより、市外の人々にも施設を使用しやすい環境をととのえる

1) 文化活動と、地産品を組み合わせた「地域ブランド」の確立、宣伝

東条地区については、都市計画マスターplanに「利便性の高い市街地の形成とレクリエーション機能の充実したまちを目指して」と書かれているように、ひょうご東条ニュータウンインターパークを中心に市街化を進める一方で、その他の地域についてはレクリエーション施設を含めた自然の景観や、優良な山田錦の田畠、農村里山の保護がうたわれています。

しかし、農村里山の保護には、「農地を守るだけでなく、その農地を守り育てていける人材の確保が大変重要です。しかしながら、東条地区の農家は農業の担い手の高齢化が進んでおり、若い世代は都会へ出たまま戻ってこない」という現実があります。

加東市は優良農地の転用に大変慎重である姿勢が東条中学校移転地の議論で確認されましたが、全国的に見ても、東条地区に限っても、足りないのは田畠ではなく、次世代を担う農業従事者です。

折角優良農地を保存しても、それが地域の不満や不便をまねき、若い農業従事者数を減らす結果に繋がるのであれば、結局優良農地を守ることは出来ないのでしょうか。

一次産業に興味のある若い人々を惹き付けるには、まず、外からの人々を受け入れやすい空気を作ることが大事です。そして、その上で、若い人達のアイデアを生かした新しい試みが育つ土壤をつくる必要があります。

一般的には、外部からの客足が増え、人の交流が増えることでそれが可能になりますが、この場合は、大型ショッピングセンターなど、通常人の往来を増やすために使われる手法は役に立ちません。消費者との間に巨大店舗を挟めば、地元の産業は価格競争に負けてしまいます。そのような場所が、生産者にとって魅力的ではないことは明らかだからです。

そこで、私たちは、生産活動と直接には競合しない文化活動と、地産品を組み合わせた「地域ブランド」の確立、宣伝を提案します。

たとえば、東条文化会館でイベントを行う一方で、同日にホワイエの一部、リハーサル室、気候の良い季節は駐車場の一部などを使い、ファーマーズマーケット等のイベントを行うというのはいかがでしょうか。ファーマーズマーケットといつても、かならずしも農産品である必要はなく、地域の工業生産物のブースもあって良いかと思います。マーケットでの収入はそのまま出店者の現金収入に繋がりますので、生産者の生産意欲向上に貢献します。

更に、東条文化会館で行うイベントは、毎回テーマを決めて、そのテーマに合致する地産品や、とどろき荘のような地域レジャー施設などの宣伝も同時に行います。かならずしもイベントの内容と宣伝内容に関連がある必要はありません。むしろ、意外な組み合わせの方が外部の人の目をひくこともあり、そのようなケースでは大きな宣伝効果があります。

これらの宣伝を行った上で、イベントの会場に生産者が宣伝商品の販売者として参加し、イベントの参加者と生産者が直接交流できるようになれば、意欲ある生産者が新たな「地域ブランド」を生み出すきっかけとなるかも知れません。

東条地区の方々が、地域をなんとか活性化させたいと考えているのであれば、東条文化会館は、そのための人集めの切り札になり得ます。もしこれが取り壊されてしまえば、もはやそのようなイベントを行える施設が東条地区には存在しなくなり、農地転用の難しさから、それに変わる施設の建設も難しい状況になってしまいます。

したがって、東条文化会館の存廃については、単純に予算のみを考慮するのではなく、今後東条地区をどのように発展させていくのか、といったより大きな視点に組み込んだ上で、住民も加えた議論の場で検討すべきであると考えます。

2) 「コスミックホールへ行ってみよう」イベントや、企業スポンサーをつけた冠公演など、民間主体のイベントをより発展させ、協力企業や団体を募り、ホール運営費用の充填をはかる

現在、音楽家有志の「コスミックホール愛好会」により、「コスミックホールへ行ってみよう！」シリーズ企画が東条文化会館で開催されております。現時点では、たしかに収益は僅かで、このような企画が長続きするのか、と、市の方々が疑問に思うのも無理からぬことです。

しかし、このような企画にも、いくつか手を加えることで、高額なチケット代をとらずとも十分採算がとれ、なおかつ地域宣伝の一助となる道もある、と考えております。

まず演奏家に関して言えば、既にコスミックホールのファンである演奏家の皆様は勿論、そうでない演奏家の方々にも「ギャラはなくとも参加したい！」と思わせられるだけの付加価値をつけること出来ると考えています。

たとえば、音楽家自身のプロモーション（宣伝活動）の一環として、「コスミックホールへ行ってみよう！」シリーズを音楽家の皆様に積極的に活用していただく、ということも考えています。

国内外の有名音楽事務所に所属する一部の演奏家をのぞけば、演奏家は皆自分自身で宣伝活動を行わなくてはなりません。しかし、人生を音楽に捧げてきた音楽家にとって、自分自身でプロモーションを行うのは決して簡単なことではありません。そこで、私たちがその宣伝部分に関して一部お手伝いをする代わりに、コスミックホールでのイベントにチャリティ参加していただく、といった方法も可能なのではないかと考えています。

そもそも、音楽家にとって、チャリティイベントに参加するというのは、たとえ収入はなくとも、それだけで大変強力な宣伝効果をもつ上に、かならずしも自分の演奏のファンばかりではない観客に自らの演奏を聴かせるという、舞台上での経験を積める非常に貴重な機会です。国内外の数多くのチャリティコンサートに多くの演奏家が毎年貢献し、既に世界に名前を知られる演奏家でさえ積極的にこのような機会に演奏を行うことには、そうするだけの理由があります。

そして、多くのチャリティコンサートは、毎年決まった場所で定期的に行われており、チャリティコンサートの名声が広まるにつれ、外部からその場所を訪れる人々の数も増大し、それは地域の大きな宣伝、活性化に繋がります。一度そのような発展がみられれば、今度はそこで協力企業や協力団体を募ることが可能になります。

そのような土壤が出来上がれば、企業スポンサーをつけた冠公演も行いやすくなり、現在は加東文化振興財団単独主催で行われている演奏会も、より低予算・少リスクで開催することができます。

そして「お金を払っても良質な音楽を楽しみたい」という層が増えてくれれば、それはコスミックホールでのイベントのみならず、加東市の他の音楽イベントの収益にも良い影響を及ぼすと期待できます。

現在は地域住民も東条文化会館をもり立てていく気概に溢れており、更に全国各地の音楽家の協力が得られる状態であることを勘案すれば、新しい試みとして試す価値のあるものと思います。

3) 文化会館の予約手続きのオンライン化や、キャンセル可能期間を設けることにより、市外の人々にも施設を使用しやすい環境をととのえる

ホールの収益を改善する手段として、現在のホール予約の煩雑さの解消を提案します。

現在、加東市のホールは、直接ホールまで予約に出向く必要があり、更にキャンセルが出来ません。

インターネットで予約状況が確認でき、その場で予約が行えること、使用料金をインターネット経由で振り込めるようにすること、及びキャンセルを可能にすることによって、市外在住の方でもホールの使用が簡単になります。

とくに、客席を使わない舞台練習利用などは、直前に場所が必要になり、慌てて利用場所を探す、といったケースもあります。そのようなときに、「加東市はネットで予約が出来る、キャンセルも可能」といった話が広まれば、多少遠くとも利用しよう、という動きも出てくるのではないかと思います。

キャンセルについては、例えばの話ですが、

- ・リハーサル室や会議室などは、使用日の1週間くらい前までに使用料の振込がなければキャンセル扱いとする。ただし、一度払い込まれた使用料は、キャンセルしても返金しない
- ・ホール使用は、予約後一定期間内に入金を完了することとし、3ヶ月前までキャンセル可能だが、キャンセル時期により返金率を変える

といったような方法は考えられないでしょうか。（キャンセル期限は適当に例を上げただけですので、数字に根拠はありません）

予約のオンライン化については、かならずしもリアルタイムオンライン化である必要はないと思います。当面は、現在加東市が提供している公共施設使用状況のページを若干拡張し、それぞれの部屋でどの時間帯が既に予約済みまたは使用確定済みかが分かるような作りに変更し、予約は専用のメールフォームや電話等でも受付を行い、担当の方が予約手続きを完了して公共施設使用状況ページに反映する、といった形でも良いのではないでしょうか。それだけでも、現在よりはずっと利用しやすくなります。また、これならば、現在のように直接窓口に出向いて予約する方々にも適用できます。

自治体が管理する施設の利用については、加東市のみならず、どこの自治体でも手続きが煩雑であり、キャンセル不可などいろいろと難しい一面があることは承知しております。特に、キャンセルについては、市の施設利用に関する規定を変更しなければならないような話だと思われますので、簡単ではないのかも知れません。しかし、手続きが煩雑であるが故に、数十億の税金をつぎ込んで建設した施設が使われるのは大変勿体ないことです。時代に即さない規定であれば、是非積極的に変更して頂きたいと思います。

施設の稼働率が上がれば、その施設の評判も広まり、さらにより多くの方々に施設を利用してもらう機会が増え、使用料収入の増加に繋がります。是非、ご検討下さい。

※参考資料は、割愛しています。

加東市公共施設適正配置計画（案）の代替案



【はじめに】

用地の取得が無理なので、小中一貫校の建設地は（案）通りでは、何も進展していません。用地の取得には時間がかかるのは誰もわかっています。回答をすぐに貰おうとは思いもよりません。小中一貫校でなく一貫教育についての研究会が緒に就いたばかりです。

1. 東条文化会館

たとえ話をさせていただきます。コスマックホールは、旧東条町民が大切に生み育ててきた一人娘です。芸術ホールはヨーロッパ言語では女性名詞です。平成2年に生まれました。親の欲目から見ても自慢の娘でした。16歳となった平成18年に嫁がせました。親の手から離す娘ですから、辛いことがあっても文句を言うな、辛抱をせよ、これからは夫はもとより、舅、姑さんを実の親と思って仕えよ、尽くせよ。かわいがってもらうようと、娘にも自分たちにも言い聞かせました。これは世間によくある当たり前の話で、自分のことを言っているのではないかと自問自答しています。木管コンクールを始め、さまざまなコンサート等を催していただいたりして、多くの利用者の方たちに大事にされました。おかげさまで、合併までの心配事は杞憂に過ぎませんでした。しかし、いま芳紀まさに25歳で女性として一番魅力が増していく年頃となりました。磨きもかかり、人生経験もこれから積み、夫には愛され、義父さん、義母さんにもますます親孝行をしなければと思って居る矢先に、何か不都合をしてかしたのでしょうか、このような事態となり、実家の親としては、心配で胸がつぶれそうになりいたたまれない思いをしています…。無言の帰国（宅）になるのでしょうか。

2014年4月 総務省「公共施設等総合管理計画策定」通知、各自治体は再配置計画の提出を求められる。……床面積20%削減、計画に基づいて公共施設を解体する場合は特別措置として予算がつく。

とリンクしているのでしょうか。

AINシュタインに「死とはなにか」と尋ねたら、「モーツアルトが聴けなくなること」と答えたそうですが、文化行政の死への誘導はあってはなりません。

音楽を愛好する人たちの切なる思いを踏みにじらないで下さい。住民にとって何が幸福か、何を望んでいるかを最優先で慮るべきで、思いやる心は音楽をはじめとする情操教育からはぐくれます。教育文化を財政効率の尺度で測られるのはいかがなものでしょうか。

説明会・パブリックコメントでも多くの方がコスマックホールには特別の思いを寄せて



おられることをご理解下さい。

そのために代替案を提案して欲しいと言ったのに、「親の心子知らず」と思っていただいていていると理解しています。中学校の代替地については、[REDACTED]等から提案されています。用地確保が頓挫しないように願います。地元とも協議して下さい。現在の東条中学校が、なぜあそこに新設されたのか、当時の行政をはじめ、あらゆる関係者が論議をつくして、旧上東条村と旧中東条村の境界で合意した結果と聞き及んでいます。半世紀を経て、境界にこだわることはもうありませんが、学校の統廃合は地域の歴史等をも振り返り、地元の協力がなければ出来ません。今回のように突然に発表されではありません。マネジメント白書（平成24年3月）作成以前以後も有識者、住民等参加の委員会、協議会を設立し十分論議をつくしてください。合併協議会の情報は毎月戸別配布されていましたので、ある程度内容が把握できました。惜しむらくは今回もそのようにされていたら、このような事態にはならなかつたでしょう。すんだことはもとに戻りません。今後は手順を修正してください。

自ら文化よし！の看板を下ろして、他市町の後塵を拝することになります。ない袖は触れぬかも知れませんが、加東市民としてのほこりが傷つきます。その傷みには耐えられませ

『天声人語』（2015/6/4）に

民主主義とは何か。高橋さんは繰り返し問う。一つの答えは「意見が通らなかつた少数派が、それでも、『ありがとう』ということのできるシステム」だ。

と、掲載されました。

高橋さん：高橋源一郎。朝日新聞で1991年から文芸時評、2011年から論壇時評を連載。小説家、文芸評論家。

6月10日付丹波 篠山版で丹波市がオペレーター養成講座開講との記事がありました。東条文化会館はもとはボランティアスタッフがホール音響・照明を担当していましたので一考の余地があると提案します。

「加東のコスミックホールを守り育てる会」から代替案が提出されていますので、その概要は省略させていただきます。

2. 東条公民館

東条地域まちづくり協議会は、兵庫県県民交流広場事業として、平成22年度に発足しました。東条公民館の一部施設を借用して、補助金2,600万円のうち整備費として2,000万円を主に調理室（IH化）、別館会議室の改修工事に充当しました。竣工は平成23年3月です。「公共施設適正配置計画（案）」では、約2年前から、東条公民館の取り壊しが計画されていたわけです。まちづくり協議会の方へは一切打診がありませんでした。取り壊せば補助金をドブに捨てるようなものです。交流広場活動の「ふれあい喫茶」は平成23年11月から月2回実施、小規模ながら地域のミニ文化祭を昨年11月に5年目にしてようやく開催に出来ました。このような活動拠点になっていることをご存じなか

ったのでしょうか。あまりにも無慈悲な（案）ではないでしょうか。どうか知つておられても知らなかつたと答えていただきたい。継続使用を要望します。県民局へも実情を報告しております。後日、回答をいただく予定です。

3. やしろ国際学習塾及び図書・情報センターについて

図書館は各中学校区に1館は必要です。交通アクセスが整備されたら1館でも良いとの提案もあるようですが、まだ老朽化しておりませんし、現状維持が望ましいと思います。加東市は身近に中小規模の図書館があり、利用しやすいので、全国一の貸し出し数を誇ります。また、図書・情報センターも廃止はすべきでないと考えます。「やしろ学習塾（やしろラーニング・オムニ・コア）」は昭和62年度、自治省（当時）のリーディング・プロジェクト国際都市整備事業の指定を受けました。施設一体となった地域住民の自己学習と地域の活性化を促すための拠点でなくなります。一例をあげると学習塾設立と同時に購入された稀観本の行き先がありません。「新・社町制施行35周年記念誌」『『社町のまちづくり』国際文化都市をめざして』等を読ませていただくと、石古町長をはじめ当時の関係者の方々の熱意がひしひしと伝わってきます。それは現在も脈々と受け継がれています。市民の誇りを奪わないでください。

学習塾に図書館利用者が寄りつかなくなれば、ついでに催し物のチケットを買おうとしてもできません。図書館を利用する方は、コンサート・セミナー等にも関心があるからです。相乗効果を奪うことになりかねません。大きな建物に事務所の職員だけになるのも不自然です。

数年前にも廃止計画があり、地元の関係者の方たちの反対署名活動で取りやめになりました。上福田地区の住民の方に取っては過去の歴史から言って聖地なのです。前回は廃止後の利活用についてのプランが何もなく、今回はリハーサル室にするとなっています。コスミックホール・東条公民館を取り壊し、とどろき荘も縮小するとなっていますが、木管コンクールの出場者方たちの練習の部屋の確保のためですか、楽団等のためですか、木管コンクールの出場者の方たちが沢山のパブリックコメントを寄せられています。何が最善かご判断願います。パブリックコメントで木管コンクールは入場者が少ない等は多くのコンクールは本来審査員だけだということをご存じないと思われます。

4. 小中一貫教育

6月6日新聞掲載に 小中一貫校建設地 加東市「計画案が適当」 市会委中間報告に回答と掲載されていました。

市会の2回目と同時に2月13日に報告されたものに今頃回答されていますが、真意はなにか教えて下さい。

学校は地域の歴史そのものです。行政単独で統廃合を計画されたようです。今さら言つても詮方ないことですが、たった2頁で「加東市の小中一貫教育－未来あるこどもたちのために－」と銘打つて、説明会の資料として配付されました。多くのかたが指摘されましたように、晴天の霹靂なんです。いくら過去に説明をしてきたと言われても、それは総合的なことではわからないので、具体的に今回示したと言われても知らないのです。

小学校の統廃合のみでも、多可町八千代区は「統合準備委員会」、篠山市の3小学校については「準備委員会」で「統合に向けて大きな合意形成を図ってもらったことに感謝したい。」と加東市は1年半をかけて市長部局、教育委員会の一部の委員の方と事務方で（案）を練られたようですが、他市町はその間に手続きを踏んで検討されてきました。準備委員会からこのたび教育長に報告されています。加東市が今準備しているとおっしゃるなら、32年に向けて、市民の合意形成が遅れてしまったことになります。

1年半前になぜ計画をオープンにされなかったのか、公共施設の統廃合とからめて、なおさら複雑になりました。残念でなりません。

「加東市小中一貫教育研究会」が6月10日に開催されたと新聞報道されていました。

「一貫教育研究会」だから前提に研究する会であることは当然ですが、「9月に中間報告を来年3月に最終報告をまとめる方向で論議を進めることを確認した。」と、あまりにも性急すぎます。「巧遅は拙速にすぎず」ですか、それも、ことによりけりです。全国的にもたぶん前例がありません。5、6年以上もかけて慎重に検討し議論を重ねてます。小中一貫教育については、総論で概要は把握できます。各論が大事なのですが、小学校区の特性があります。社小学校はこれ以上のマンモス校にして欲しくはありません。校区が広くなりすぎます。慎重に協議して下さい。

アンケートは生徒に持ち帰らせて回収された方がベターでした。参観日、PTA総会の記入し回収されたようで、考える余地はありません。保護者の方たちは、一般的な説明会にもほとんど参加されていません。

もし東条地域の学校の統廃合を押しすすめる場合は、八千代小学校、篠山小学校と同じように東条地域の関係者を主体とした委員会を設置して下さい。東条西はかつて小学校と中学校が隣接していた歴史があります。「市小中一貫教育研究会」では十分実情が把握出来ないと思います。連携しながら進めていくべきではないかと考えます。その他の校区についても同様です。

神戸新聞の北播版 住民の意見を聞き、委員会・協議会・研究会で論議を尽くしてから、多紀小学校などは6月10日の報道で委員会が教育長に提出しています。国でも諮問委員会という言葉をよく聞きます。これが世間の常識ではないでしょうか。加東市の対称地区の住民がなぜ市当局に説明会・パブリックコメント等で熱い思いを吐露したか考えて下さい。

(案)はプロセスを踏んでから発表すべきでした。

すんだことはしかたがありませんので、順序が変わっても住民の意見を十分反映しなければなりません。

5月24日 東条公民館 和光大学 山本由美教授

加東市の方針について「具体性がなく、小中一貫カリキュラムも前提にない。4万人の都市に（統合校）3校というのは乱暴な計画」、全国的な調査は3件ほどしかなく「教育的効果や短所がきちんと検証されていない」、施設一体型の小中一貫校は3分の1が九州にあることを挙げ「過疎地の小さな学校を統廃合するために進んでいる」などと説明され

ました。

なぜ、近隣を含め多くの市町村が慎重なのかを考えて下さい。32年問題に大きな比重をかけるべきではありません。多くの親は子どものためなら自分の食べる物、着る物を節約してでも教育にお金をかけます。補助金も一つの選択肢ですが、本当に大事なものを子どもたちから奪うことにならないかと思います。

八千代小学校は3校統合、なぜ小中一貫校まで発展しなかったのか、小中連携・一貫教育はすすめるのか。小野市の河合地区の小中一貫教育の実態は新聞報道以外いのことも聞こえてきますがどうか。三木市は議会で学校統合問題が質疑されたと6月12日に新聞報道がありましたが今後の推移は。西脇市はなぜ踏み切らないのか。それぞれ事情があるのは当然ですが、高校進学は校区がさらに広がります。単独の自治体で小中一貫を導入するのではなく、北播地域全体で協議すべき時期ではないのでしょうか。地域住民にとっては、体制が変わることについては当然不安が伴います。もっと時間をかけて論議を尽くしていくべきと考えます。

【おわりに】

「東条文化会館」の詳細については、「加東市のコスミックホールを守り育てる会」から代替案が出ていますので省略いたします。

くりかえしますが、くれぐれも先走りせず物事は手順を踏んで進めて下さい。論議の場を広げて下さい。一般住民も理解を深められるようにして下さい。そうすれば、賛同を得ることができます。

他市町はスムーズに計画が実施されようとしているのに、加東市はなぜ新聞紙上を賑わせているのか、それはプロセスを踏んでおられないことの一語に尽きるのではないかと感じています。

今回の一連の公共施設訂正配置計画（案）に関する新聞報道で首都圏・中央、県・県民局、近隣市町に知れわたっています。対岸の火事とされるのか他山の石とされるのか。

他市から羨望の目で見られ、畏敬の念をもたれる山よし、技よし、文化よしのまちづくりを住民と協働で行っていこうではありませんか。

その点でも企画部企画政策課から協働部企画協働課への名称変更の意義は大きく、時宜に適っており、説明会、パブリックコメントをもう一度、虚心坦懐 純粹な心に戻り再度熟考、熟慮のうえ住民と協働して住民基点の理念と実現すべきビジョン（総合計画）を再構築していただけるものと、今後に期待しております。

加東市公共施設適正配置計画に
対する代替案について

あたしの件について提案します。

「どうぞさせむ」

○宿泊は継続とし、宿泊者の入浴時間
・延長見直す事。
・三郷を基本とする。

○会議室の利用時間の見直し、現行を

基本して

~~時間貸し可能となる~~

○宿泊部屋、すべてにトイレを設置する。

○東条公民館との統合はしないとされ
出来事なら文化ホールと統合す
と考へる。

